

平成 21 年 6 月 12 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18320060

研究課題名（和文） 植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究

研究課題名（英文） Experiences in Japan of the Korean literary persons
on the Colonial Period

研究代表者

波田野 節子（HATANO SETSUKO）

県立新潟女子短期大学・国際教養学科・教授

研究者番号：50259214

研究成果の概要：植民地時代に朝鮮から日本に留学した文学者たちの足跡を調査し、個別研究を行なった。それらの情報を総合してデータベースを作成し、韓国の研究協力者たちと情報を共有した。また、うもれていた資料を翻訳したほか、作家たちの生活にかかわる文学地図を作成して「文学散歩」も行なった。最終年度にはシンポジウムを開催して、韓国の研究協力者たちと植民地時代における「日本留学」の持つ意味について討論し、内容をまとめて本を刊行した。

交付額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	2,800,000	0	2,800,000
2007年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2008年度	3,100,000	930,000	4,030,000
年度			
年度			
総計	8,000,000	1,560,000	9,560,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学・文学論

キーワード：韓国 朝鮮 近代文学 植民地 日本留学

1. 研究開始当初の背景

（1）朝鮮近代文学には植民地時代に日本に留学した作家が数多くいる。だが彼らの日本滞在に関する情報は非常に少なく、現在韓国で行なわれている近代文学研究でその部分は空白に近い状態である。日本ではこれまで大村益夫を代表として二度にわたり科研共同研究が行われたが、対象作家の数が多いのに対して国内研究者の数は少なく、成果は充分とはいえなかった。そこで基礎資料の調査と収集を継続する必要があった。

（2）これまでの共同研究は国内研究者のみによって行われたため、収集された情報を韓国の研究者と共有する体制ができていなかった。また、情報を分析して、植民地時代における日本体験が朝鮮近代文学にいかなる意味を持ったかの検討も不十分であった。国際的な研究協力体制をとり、情報を共有しながら、共同で分析と検討を行なうべきであるという認識があった。

（3）植民地時代の作家たちの日本体験を研

究するためには、彼らが日本で出会った社会や文学を知らねばならない。その領域を専門とする研究者との学際的協力が必要であるという認識があった。

2. 研究の目的

(1) 朝鮮近代文学作家たちの日本滞在関係資料を発掘収集し、韓国の研究協力者と連携しながら作家研究をおこなう。

(2) 最終年度に日韓シンポジウムを開催し、朝鮮近代作家たちの日本体験が朝鮮近代文学にあたえた意味を、国際的かつ学際的な視点で検討する。

3. 研究の方法

(1) 研究分担者は各自が担当した作家に関して、研究協力者の協力を得て個別研究をする。

(2) 研究分担者と国内研究協力者はメールリストで連絡を取り合うほか、年に二回以上研究会を開いて成果を報告して検討を行なう。

(3) 最終年度のシンポジウムに先立ち、初年度と次年度に一回ずつ、韓国側研究協力者と合同研究会を開いて、情報の共有と総合的検討を行なう。

(4) 個別研究のおよびシンポジウムの準備の過程で必要と判断された資料の翻訳をする。

(5) シンポジウムを開催し、その内容をまとめて本を刊行する。

4. 研究成果

(1) 作家たちの日本滞在時代の記録を集めてデータベース「朝鮮人作家の日本体験一覧表」を作成し、研究代表者のホームページにおいた。学籍簿など個人情報配慮してパスワードで入れるようにしてあるが、関係者にパスワードを配布したほか、必要な研究者には公開する体勢をとってある。

(2) 埋もれた資料の翻訳として、1905年から1912年まで日本留学していた趙素昂がつけていた日記『東遊略抄』を翻訳し、解説をつけて、冊子として刊行した。

(3) 朝鮮近代文学者たちの下宿等、ゆかりの地を調査して朝鮮近代文学地図を作成した。

(4) 最終年度である2008年10月31日からの3日間、在日本韓国YMCA会館と早稲田奉仕園のスコットホールを会場としてシンポジウムを開催し、多数の参加者をえて、以下のことを行なった。

- ① 分担者らによる個別作家に関する研究発表(李泰俊・朴花城・李光洙)
- ② 作成した文学地図による「文学散歩」。早稲田・日本女子大エリアと本郷・神田エリアとに分け、シンポジウム参加者たちを朝鮮近代文学者たちゆかりの地に案内した。
- ③ パネルディスカッション「植民地期朝鮮文学者の日本体験」を開き、韓国側研究協力者と日本側研究分担者として日本留学の意味について検討した。
- ④ 韓国女性文学研究の第一人者である徐正子と日本女性文学研究の第一人者江種満子とで対談した。朝鮮の先駆的女性羅蕙錫に対して日本留学がもった意味をさぐり、青鞮と白樺派の影響の大きさを確認した。
- ⑤ 上記対談の準備作業として対談者双方の研究論文、羅蕙錫の著作、および羅蕙錫をモデルにした廉想渉の短編を日本語に翻訳した。
- ⑥ 以上の内容を本にまとめて刊行した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計20件)

- ① 沈元燮、金鐘漢の日本留学体験と「純粹詩」の詩論ーバレリー、ブルーノタウト、ホフマンスタール体験と関連して、韓国文学論叢(韓国)、50、293-317、2009、有
- ② 沈元燮、金鐘漢と佐藤春夫、ペダルマル(韓国)、43、265-288、2009、有
- ③ 沈元燮、1930年代における韓、日「広野」表題の詩に関する研究、現代文学研究(韓国)、37、355-384、2009、有
- ④ 山田佳子、朴花城の長篇小説『白花』について、県立新潟女子短期大学研究紀要、46、141-149、2009、無
- ⑤ 権寧俊、中華民国期前半の間島における対朝鮮人教育政策と民族教育運動、北東アジア地域研究、14、99-113、2008、有
- ⑥ 波田野節子、『無情』を書いたころの李光

- 洙、県立新潟女子短期大学研究紀要、45、333-341、2008、無
- ⑦ 山田佳子、朴花城の東京留学時代、県立新潟女子短期大学研究紀要、45、305-313、2008、無
- ⑧ 渡辺直紀、植民地朝鮮のプロレタリア農民文学と満洲 - 「協和」の叙事と「再発明された農本主義」 - 、日本学報(韓国日本学会、日本語論文)、74-2、205-226、2008、有
- ⑨ 渡辺直紀、植民地朝鮮のプロレタリア農民文学と満洲 - 「協和」の叙事と「再発明された農本主義」 - 、韓国文学研究(韓国・東国大学校韓国文学研究所、韓国語論文)、33、7-51、2007、有
- ⑩ 沈元燮、金鐘漢の初期文学修行時代について、韓国文学論叢、46、307-337、2007、有
- ⑪ 波田野節子、植民地主義と女性主義の二つの道(翻訳)、朝鮮学報、202、91-124、2007、有
- ⑫ 熊木勉、太平洋戦争下の朝鮮における抒情詩の姿(上)、福岡大学研究部論集(A:人文科学編)、6-6、95-120、2007、無
- ⑬ 山田佳子、朴花城の長篇『北国の黎明』について、県立新潟女子短期大学研究紀要、44、217-225、2007、無
- ⑭ 波田野節子、『林巨正』執筆第2期に見られる‘ゆれ’について、朝鮮学報、199/200合併、191-230、2006、有
- ⑮ 山田佳子、朴花城の植民地期の作品と舞台について、朝鮮学報、201、89-126、2006、有
- ⑯ 山田佳子、ソウル文学散歩 - 朝鮮文学への招待、デジタル月刊百科(平凡社)、9-10月号、ウェブ12頁、2006、無
- ⑰ 渡辺直紀、林和の詩作品における叙情性の位相について、朝鮮学報、201、127-164、2006、有
- ⑱ 渡辺直紀、関係の不安のなかでさまよう<生> - 李良枝(1955~92)小説の作品世界 - 、日本研究(高麗大学校日本学研究センター、韓国語論文)、6、259-281、2006、有
- ⑲ 申銀珠、朴景利『土地』に描かれた日本・日本人像、新潟国際情報大学情報文化学部紀要、9、19-27、2006、無
- ⑳ 申銀珠、予感する<女>たち - 韓国語訳『ジョゼと虎と魚たち』をめぐって - 、国文学解釈と鑑賞 田辺聖子 - 戦後文学の新視角、別冊、240-249、2006、無
- [学会発表] (計14件)
- ① 熊木勉、『思想の月夜』と日本 - 李泰俊の日本体験、韓国現代文学会、2009.3.21、ソウル大学
- ② 権寧俊、韓国における中国朝鮮族の移動と現状、朝鮮族研究学会、2008.11.29、大阪経済法科大学東京麻布セミナーハウス
- ③ 波田野節子、李光洙の第2次留学時代カレンダー、「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」シンポジウム、2008.11.1、在日本韓国YMCA会館
- ④ 熊木勉、李泰俊とベニンホフ、「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」シンポジウム、2008.10.31、早稲田奉仕園スコットホール
- ⑤ 山田佳子、朴花城と日本女子大学周辺、「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」シンポジウム、2008.10.31、早稲田奉仕園スコットホール
- ⑥ 山田佳子、作家朴花城の東京体験、朝鮮学会、2008.10.4、麗澤大学
- ⑦ 山田佳子、ある知識人作家の誕生 - 小説の舞台から見た朴花城の解放前小説研究 - 、素影朴花城、文学・文化フェスティバル、2008.9.20、木浦文学館(韓国、全羅南道)
- ⑧ 波田野節子、李光洙の第2次東京留学について、韓国現代文学会、2008.8.22、ソウル大学
- ⑨ 波田野節子、李光洙の東京留学と『無情』、東京大学コリア・コロキウム、2008.7.29、東京大学
- ⑩ 波田野節子、朝鮮文学者たちの日本留学、植民地文化学会、2008.7.12、東大島文化センター
- ⑪ 沈元燮、満洲を詠った朝鮮の詩人たち、

植民地文化学会、2008.7.12、東大島文化センター

- ⑫ 熊木勉、李泰俊の日本体験と「東京の月夜」の背景、2007年度「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」予備シンポジウム、2007.11.17、県立新潟女子短期大学
- ⑬ 沈元燮、日本滞留期の金鐘漢の文学観について、2007年度「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」予備シンポジウム、2007.11.17、県立新潟女子短期大学
- ⑭ 申銀珠、林和の日本体験、2007年度「植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究」予備シンポジウム、2007.11.17、県立新潟女子短期大学

〔図書〕(計9件)

- ① 波田野節子、熊木勉、山田佳子、申銀珠、沈元燮、渡辺直紀、青雲社、植民地期朝鮮文学者の日本体験に関する総合的研究(科学研究費補助金研究報告書)、2009、500
- ② 熊木勉、布袋敏博(共訳)、平凡社、太平天下、2009、437
- ③ 波田野節子、白帝社、李光洙・『無情』の研究、2008、481
- ④ 波田野節子、ソミョン出版(ソウル)、無情』の光と影 - 『無情』を読む(韓国語)、2008、472
- ⑤ 波田野節子、熊木勉、沈元燮、渡辺直紀、他19名、くろしお出版、野間秀樹編著『韓国語教育論講座』第4巻
- ⑥ 申銀珠・洪順愛(共訳)、文学トンネ(韓国)、『滴り落ちる時計たちの波紋』(平野啓一郎著)、2008、357
- ⑦ 山田佳子・波田野節子・熊木勉、他4名、平凡社、『短編小説集 小説家仇甫氏的一天』(共訳)、2006、365
- ⑧ 渡辺直紀、至文堂、『韓流サブカルチャーと女性』、「韓国における文学の現況—2004-2005—」の章を執筆、2006、278(うち234-247)
- ⑨ 渡辺直紀、ブリタニカ・ジャパン、『ブリタニカ国際年鑑』、「韓国文学」の項を執筆、2006、732(うち361-362)

〔その他〕

<http://www.nicol.ac.jp/~hatano/kaken/kaken-index.htm>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

波田野 節子 (HATANO SETSUKO)
県立新潟女子短期大学・国際教養学科・教授
研究者番号：50259214

(2) 研究分担者

沈 元燮 (SHIM WONSOP)
早稲田大学・国際教養学術院・教授
研究者番号：80386698

申 銀珠 (SHIN UNJU)

新潟国際情報大学・情報文化学部・教授
研究者番号：20339930

山田 佳子 (YAMADA YOSHIKO)

県立新潟女子短期大学・国際教養学科・准教授
研究者番号：10425366

渡辺 直紀 (WATANABE NAOKI)

武蔵大学・人文学部・准教授
研究者番号：80409367

熊木 勉 (KUMAKI TSUTOMU)

福岡大学・人文学部・教授
研究者番号：70330892

権 寧俊 (KWON YONGJUN)

県立新潟女子短期大学・国際教養学科・准教授
研究者番号：20413172

(3) 研究協力者

大村 益夫 (OOMURA MASUO)
早稲田大学・名誉教授

江種 満子 (EGUSA MITSUKO)
文教大学・文学部・教授

白川 豊 (SHIRAKAWA YUTAKA)
九州産業大学・国際文化学部・教授

芹川 哲世 (SERIKAWA TETSUYO)
二松学舎大学・文学部・教授

浦川 登久恵 (URAKAWA TOKUE)

熊本学園大学・講師

武井 一 (TAKEI HAJIME)
日比谷高等学校・講師

崔 元植 (CHE WONSHIK)
仁荷大学・国文科・教授

徐 正子 (SO JONGJA)
草堂大学・副学長

金 榮敏 (KIM YONGMIN)
延世大学・国語国文学科・教授

金 哲 (KIM CHOL)
延世大学・国語国文学科・教授

李 京墳 (I GYONGHUN)
延世大学・国語国文学科・教授

鄭 大成 (CHONG DESONG)
東元大学・講師

岸川 秀実 (KISHIKAWA HIDEMI)
弘益大学・講師